

重複障害児教育の充実

私たちには教育を受ける権利が与えられている。それは重複障害児も例外ではない。もちろんその権利を守るために工夫されていることもたくさんある。しかし、解決すべき問題もある。重複障害児教育において大切なことは何だろうか。私は、教育を充実させることだと考える。

教育を充実させるというのは一人一人のニーズに合わせた教育をすること、受け入れが可能な場所を増やすことを指す。一人一人のニーズに合わせた教育をすることについては、今も様々な工夫を凝らして行われていると思う。そのうちの一つに「学習到達度チェックリスト」というものがある。これは、「障害が重度であっても、教科の枠組みでつきたい力を把握し、教員、保護者、関係者間で子どもの状況を共通理解していこうとするために開発されたものである。そして、教科等の学習に遅れのある子どもの学習評価を可能にするためのもの」である。これを利用した教育を行うことで、各児童の学びの段階を把握することができるようになる。児童が様々な表出を遊びによって使い分けて気持ちを表現しようとしていたことを整理し、把握することができる。というような効果がある。学習到達度チェックリスト以外にも自立活動を通して、一人一人に合った教育が行われている。現在特に問題なのは、受け入れ可能な施設が限られていることだ。幼稚園や保育園など義務教育より前段階にあたる発達段階の時には、障害を理由に受け入れてもらえなかったという話を聞いたことがある。また、放課後デイサービスにおいても障害の重さや特性が原因で受け入れてもらえないという現実がある。ほかにも、市内の小学校への進学を希望していたが特別支援学校への入学を余儀なくされたという事例もある。これらの事例のすべてが間違っているとは言いきれない。施設が不十分な公立校で学習するより十分な施設が整っている特別支援学校のほうが障害児になにかあったときに対応できるだろう。体制が整っていないのに無理して受け入れてほかの子にも迷惑をかけるかもしれない。

私は時には拒否することも必要だと考えている。自分たちでできることには限界があるからだ。しかし、それで終わっていいわけではない。様々な子どもたちを受け入れるためにできることを考え、時には周りの人の力を借り、時には国の力を借り、次は受け入れるように努力することが大切だ。一人でも多くの子が、望む場で教育を受けることができるように。

(1006文字)

参考文献

慶応義塾大学出版会 | 障害の重い子どもの目標ガイド | 徳永豊

<https://www.keio-up.co.jp/np/isbn/9784766421804/> (2024年1月14日閲覧)

受け入れ拒否が続出？放デイ利用の現実と闘！ASTEPの方針をお伝えします！

放課後等デイサービス ASTEP（アステップ）・ASTEP 長岡京

<https://www.astep-kyoto.com/reality-7416> （2024年1月14日閲覧）

障害児の希望校、認めず就学先指定「差別なし」横浜地裁判決 東京新聞

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/17481> （2024年1月14日閲覧）